

漂着ごみ、答志島に集中

海流、季節風が影響

ペットボトル
など人工物も 6・7割が流木類

県、伊勢湾14カ所調査

県が実施した伊勢湾全域十四カ所を対象とした平成二十一年度海岸漂着ごみ実態調査の結果によると、答志島の「奈佐の浜」にごみが出出して押し寄せていることが十五日までに、分かった。伊勢湾を反時計回りに流れる海流に加え、調査期間が冬だったため、西北からの季節風の影響も受けたとみられる。県では昨年七月成立した海岸漂着物処



答志島に海岸漂着ごみが押し寄せている状況を示す調査結果

網を使った海底調査を鈴鹿、津、伊勢市沖の三方所

で実施し、二十一河川も目で調べている。二十一年十一月から二十二年二月の毎月一回、十府四方のごみを回収して量と量を調べた。答志島の奈佐の浜では平均二百二十五個のごみが上がった。二番目は鳥羽白浜の五十六個で、あとは二十以下にとどまっております。答志島が飛び抜けて多かった。漂流ごみの内容は六・七割が流木や木の枝などの自然物で、残りのうちの半分がペットボトルや食品トレー、レジ袋となっております。

県、国、市町や海岸清掃のNPOをつくる県海岸漂着物対策推進協議会(会長・石原義剛海の博物館館長)が先月十三日、発足。対策の内容や実施主体、役割分担を定める。県は二十三年度後半に計画を策定する予定。県環境森林部水質改善室では、海流の影響でごみがたまりやすい鳥羽市付近を中心に関心に取り組みとすも、ごみの発生抑制では木曾三川の影響が大きいため、県域を超えて呼び掛けたいとしている。

(奥山隆也)